

### 災害支援と災害受援について

#### 第21回地域リハ研究会と能登半島地震 JRAT 活動支援の経験から

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

今年の1月1日に令和6年能登半島地震が起きました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。さらに発災から3ヶ月が経とうとしておりますが、被災地や被災地周辺では、依然として大変な状況は続いております。被災地および被災地周辺の早期の復興をお祈りするとともに、復興に向けた支援を続けていきたいと考えております。

#### 【第21回地域リハ研究会(地域リハビリテーションと災害支援について)】

群馬県地域リハビリテーション支援センターでは、災害リハビリテーション支援について取組をはじめております。災害支援については、群馬 JRAT (代表:和田直樹群馬大学教授)が中心となって対応されております。災害支援については、人員の確保は大変ですが、一つの災害に数チーム派遣することは可能な状況となっております。しかし、災害とくに地震の少ないとされております群馬県でも、災害のリスクがないわけではありません。このため、災害リハビリテーションの受援体制を構築することはとても重要であると考えております。このことから、昨年末より災害リハビリテーション支援の企画として第21回地域リハ研究会を令和6年2月3日に開催しました。講師は千葉県での JRAT 活動、地域リハビリテーション活動、災害協定に詳しい千葉県千葉リハビリテーションセンターの田中康之氏をお迎えして「地域リハビリテーションと災害支援について」と題してご講演いただきました。講演後には、群馬県関係者、群馬 JRAT 関係者と情報交換会も開催して、千葉県の経験から群馬県に取り入れられる要素を討議いたしました。

下図のように被災混乱期から復興期に向けて、DMAT、JMAT、JRAT と支援が移行していきます。この中で JRAT から地域リハビリテーション活動へ繋ぐことが提唱されています。今後、多方面での協議が必要ではありますが、群馬県での受援体制も災害リハビリテーション支援体制から地域リハビリテーション活動へ移行する形が良いのではないかと考えております。

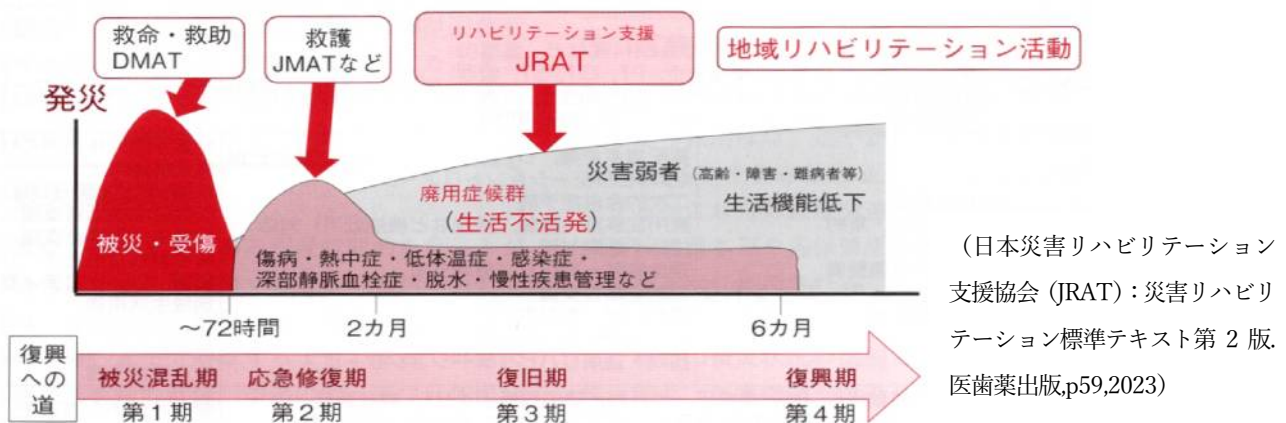


図 フェーズ分類と災害リハビリテーション支援

## 【令和6年能登半島地震でのJRAT活動を通して】

群馬 JRAT では、令和6年能登半島地震の JRAT 活動に4チームを派遣しております。1次派遣チーム(1月20-22日:医師1・PT1・OT1・ST1)、2次派遣チーム(2月19-22日:医師1・PT2・OT1)、3次派遣チーム(3月15-18日予定:PT2・OT1・ST1、PT3・OT1)の4チームです。筆者は、1次派遣チームのメンバーとして、中能登町、志賀町、七尾市で活動してきました。被災者でもある現地スタッフ、DMAT、JMAT、DHEAT、DWAT など多くのチームとの連携が重要であることを体験してきました。また、被災地および周辺地域での支援に多種類のチーム、多くのマンパワーが集結している中で、避難所、被災住宅等での支援のために適材を適所に配置することの難しさを痛感しました。今後の群馬県での災害リハビリテーション受援体制の構築に活かして行きたいと考えております。

## 第21回群馬地域リハ研究会 感想

渋川地域リハビリテーション広域支援センター(渋川中央病院) 井田慎子

「地域リハビリテーションと災害支援」というテーマの講演会、自分にできることをみつけようと思い参加しました。冒頭で「災害リハ支援は、円滑に平時の地域リハ支援体制に移管するかが大切」と聞いて、平時と同じような支援をイメージしていた私は、平時に戻れるように支援する視点は欠けていたと気づきました。講義は、地域リハビリテーションの在り方、千葉県災害リハビリテーション支援団体協議会の活動、千葉県との協定締結の道のり・・・令和6年度の新しい取り組み、とおおよそ10年にわたる千葉県リハビリテーション支援センターの災害支援活動のお話。「協定を結ぶ」という短い言葉の背景には、地域リハの活動、人との出会いやつながり、折衝が繰り返行われていて、いちリハ職では経験しない、県や関係各所の大勢の方々との関わりで活動が成り立っていることがわかりました。多職種連携と言われながらも、リハ職は社会性を高めることが上手ではありません。職域を超えたコミュニケーションスキルを磨く必要があると再確認しました。本講義の肝！として次の2つの提示がありました。

- ・元々の立ち位置によっては、災害支援と地域リハの捉え方が異なるのではないかな。
- ・協定はコミュニケーションツールに成り得るのではないかな。

それは支援の糸口であり、最も有効なツールになると私は捉えました。終始田中先生の軽妙な語り口で、難しい話でありながらも、自分事として考えることができました。天災は明日にもやってくるかもしれないという時代です。まずは「平時の地域リハの再考」に取り組もうと思います。

公立七日市病院 作業療法士 山浦卓哉

今回、千葉県千葉リハビリテーションセンターの田中康之先生より、「地域リハビリテーションと災害支援について」というテーマでご講演頂きました。

テーマにある災害支援というワードは今まさに学びたいという内容でした。と言うのも、7年間生活していた石川県で、震度7の地震により能登地区周辺に甚大な被害が発生し、知り合いのOTが被災者でありながらも被災地で支援している姿をSNS上で見たからです。そしてJRATへの参加を希望したものの災害支援の知識も経験もないため、災害支援に関して学びを深めたいと思い参加しました。

講義の冒頭より、地域リハと災害支援の関連性についてお話いただき、千葉JRATの話、県との協定についてお話いただきました。実体験の話も交えながら講義をしていただいたことにより、初学者の自分にとって分かりやすく聴講させて頂きました。その中で印象に残っていることは、地域リハ支援の理念として、その人や地域が意思決定できるように選択肢を提供し、自己決定・自己実現をサポートする役割があり、強みや課題を見出し、

効果的なつなぎ方を考え、連続的な時間軸を意識して支援していくことが必要であるとの言葉でした。病院でリハビリテーションを提供している身としても、とても大事な視点であると感じ、災害リハビリテーションに取り組む上で重要であることを学びました。また、災害支援においては「円滑に平時の地域リハ支援体制に移す」ことが重要ですが、その人や地域の平時の地域リハ支援の対象が、「in the community(地域“で”どのように支援するか)」なのか「community based(地域“を”どのように変えていくか)」なのかといった視点で支援を行っていくことがとても必要だと感じました。

今後は、少しでも被災地の復興に力添えできるよう、災害リハビリテーションについて学びを継続していきたいと思います。

最後に今回の講義を行っていただいた田中先生、ならびに運営に携わっていただいた方々へ感謝申し上げます。



## 第 26 回

### 群馬県地域リハビリテーション協議会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長

山路雄彦

令和 6 年 3 月 13 日(水) 18:30 よりオンラインにて開催されました。議題は(1)群馬県地域リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターにおける事業実施状況、(2)介護予防サポーター等の養成状況、(3)令和 6 年度の群馬県の取り組み、(4)令和 6 年度介護予防事業・地域リハビリテーション関連予算についてであり、これらの説明がありました。出席委員から様々なご意見が出されました。「地域リハビリテーション」の意義、重要性の再確認、DMAT・JMAT・JRAT・DWAT などの災害支援チームの連携とくに受援に関する体制整備の必要性、POS バンクの必要性などご指摘いただきました。これらのご意見を今後の群馬県地域リハビリテーションセンターの活動に取り入れられるように検討を始めました。

## 令和 5 年度

### 群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会

#### 定例会議

群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会

副会長 山路雄彦

群馬県内の地域リハビリテーションに関連する団体の協議会であります「群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会」の定例会議が、令和 6 年 2 月 3 日(土)にオンラインにて開催されました。この定例会議は、年 1 回、群馬県地域リハビリテーション支援センターの活動を報告するとともに、関連団体の皆様から運営上のご質問やご意見などを伺い、今後の群馬県地域リハビリテーション支援センターの運営に活かすためのものです。和田直樹会長のご挨拶の後、群馬県地域リハビリテーション支援センターの活動報告、群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会会計報告、意見交換、情報交換を行いました。

## 利根沼田地域リハビリテーション広域支援センターうちだ活動報告

利根沼田地域リハビリテーション広域支援センターうちだ 歯科衛生士 笠原好美

利根沼田地域では、以前からリハ職の連携や有志での学びの場の提供、顔の見える関係作りが行われてきました。現在、利根沼田地域リハビリテーション広域支援センターうちだ(以下、センター)では、圏域内の地域リハビリテーション支援施設 8 か所にリハ職の所属人数や有資格者の人数、次年度の事業協力に関する情報等を提供してもらい、市町村に情報提供することで、介護予防事業の実施や地域ケア個別会議への出席など各病院・施設と市町村の連携を支援しています。

利根沼田地域では住民主導型介護予防事業「鬼石モデル」で用いられている運動プログラム「高齢者の暮らしを拓げる10の筋力トレーニング」を「福老ソング体操」として行っています。センターの取り組みとして、「福老ソング体操」のDVDを作成し、東京都立大学の浅川康吉教授に研修にてトレーニングのポイントなどを教えてもらいました。また、「オーラルフレイル予防研修会」を群馬大学の田澤昌之先生とセンターの笠原が担当し、オーラルフレイル(口腔機能の低下)が摂食嚥下障害を引き起こすこと、早期発見や適切な対応が大切であることなどを教えてもらいました。これらの研修はYouTubeにて視聴できますので、ご興味ある方は下記の連絡先までご連絡ください。

フレイル予防イベントとして、無料体力測定会の企画も行いました。コロナ禍による地域住民の方々の筋肉量や身体機能などに影響を把握したり、結果を分析することで、フレイル対策に寄与するために、行政、大学、センターが協力して実施しました。第1回は、片品村役場を会場に地域住民約30名に参加いただきました。第2回は、川場村のかわば交流ホールを会場に地域住民約25名に参加いただきました。測定結果は高崎健康福祉大学の田中繁弥先生に分析いただき、行政に伝達を行っていく予定です。今後のフレイル対策を立案するとともに、行政・大学・センター・介護予防サポーター等が協力する機会を作り、日頃から協力できる体制も構築しております。

その他にもセンターの活動として、子供から高齢者まで幅広い方々に役立つ情報の発信として広報誌を発行しております。また、研修会の開催や高齢者に関する会議の開催に加えて、令和4年度より小児リハビリテーションの関係者で会議を実施し、小児リハビリテーションに関する研修会も開催する予定です。

今後も地域で求められていることは何かを探り、先駆的に取り組みを行っているところから情報をいただき、仕組みを取り入れ、地域で暮らす皆様がいきいきと生活できるよう支援を続けていきたいです。

【連絡先】 医療法人大誠会内田病院 利根沼田地域リハビリテーション広域支援センターうちだ

歯科衛生士 笠原好美

理学療法士 篠崎有陸

mail: chiikirih@taiseikai-group.com



<p><b>群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局便り</b> (2023年12月～2024年3月)</p> <p>12/27 ニュースレター41号発送</p> <p>2/3 令和5年度群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会定例会議</p> <p>2/3 第21回群馬地域リハ研究会</p> <p>2/3 情報交換会:千葉や災害協定の実際を講師より伺う</p> <p>3/13 第26回群馬県地域リハビリテーション協議会</p> <p>3/14 ニュースレター42号発行</p>	<p><b>編集デスク</b> 山路雄彦 山上徹也 角田祐子 発行 群馬県地域リハビリテーション支援センター 連絡先 群馬大学大学院保健学研究科内 Tel/Fax:027-220-8966</p>
---	--